

A区分・C区分共通
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和6年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	演劇	種目	演劇
----	----	----	----

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分
------	-----

複数申請の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	無	申請総企画数	
---------	---	--------	--

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	
--------------------	--

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	ユウゲンガイシャセイネンゲキジョウ		団体ウェブサイトURL
	有限会社青年劇場		https://www.seinengekijo.co.jp/
代表者職・氏名	代表取締役 福島明夫		
制作団体所在地	〒 160-0022	最寄り駅(バス停)	新宿御苑前
	東京都新宿区新宿2-9-20間川ビル4階		
電話番号	03-3352-6990		
ふりがな 公演団体名	あきたうじゃく・ひじかたよしきねんせいねんげきじょう		団体ウェブサイトURL
	秋田雨雀・土方与志記念青年劇場		https://www.seinengekijo.co.jp/
代表者職・氏名	代表 北直樹		
公演団体所在地	〒 160-0022	最寄り駅(バス停)	
	東京都新宿区新宿2-9-20間川ビル4階		
制作団体 設立年月	1964年 2月		
制作団体組織	役職員		団体構成員及び加入条件等
	代表取締役 福島明夫 取締役 葛西和雄		劇団構成員 劇団員64名/準劇団員5名 /研究生11名/団友/22名
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	他の業務と兼任の担当者を置く	本事業担当者名	白木匡子
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者名	本田陽子
本申請にかかる連絡先 (メールアドレス)	info@seinengekijo.co.jp		

<p>制作団体沿革</p>	<p>1964年日本新劇界のパイオニア、秋田雨雀と土方与志に戦後教えを受けた俳優・演出家を中心となって結成、来年創立60年を迎えます。創立以来劇団制に基づくアンサンブルの重視、アクチャルな演劇創造を特徴とし、日本近現代劇、海外の作品などを意欲的に上演してきました。又、劇団活動の一つの柱として青少年のための優れた演劇の創造を追求、年間100回程度の学校公演や子ども劇場での公演を続けてきております。</p> <p>又、劇団の培ってきた「演劇の力」を社会に還元する活動として、演劇ワークショップの活動にも精力的も取り組み、学校・地域での演劇指導や、スタジオ結を活用してのワークショップを行っています。近年は生きずらさを抱えている若者の心の解放と自立に寄与する社会包摂活動にも新たに取り組んでいます。</p> <p>この間、文化庁芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業)・日本芸術文化振興会(日本劇団協議会主催事業・高校生のための巡回公演)・文化庁(舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演))に採択されています。</p>					
<p>学校等における公演実績</p>	<p>創立から青少年の為の公演を劇団活動の大切な柱として、北海道から沖縄まで、全国各地での公演を行ってきました。現在も年間1作品から2作品で全国の高等学校・中学校での公演を行っています。近年は高等学校での公演数が減少していく中、地域の方も協力して、様々な公演の形を迫及し、青少年のための公演充実に務めています。</p> <p>文化庁以外の学校公演等の実績 「オールライト」瀬戸山美咲＝作/藤井ごう＝演出 2015年～2019年189st 「野球部員、舞台に立つ!」福山啓子＝作/演出 2012年～2015年262st 「きみはいくさいに征ったけれど」大西弘記＝作 関根信一＝演出 2018年～2023年172st 「あの夏の絵」 2015年～2023年現在で201st 「行きたい場所をどうぞ」 瀬戸山美咲＝作/大谷賢治郎＝演出 2023年33st</p>					
<p>特別支援学校等における公演実績</p>	<p>平成24年度本事業による「博士の愛した数式」で実施</p>					
<p>参考資料の有無</p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>有</p>				
	<p>※公開資料有の場合URL</p>	<p>https://gakkou-kouen.seinengekijo.co.jp/work/anonatsuno</p>				
	<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="940 1821 1015 1868">ID:</td> <td data-bbox="1015 1821 1447 1868"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="940 1868 1015 1904">PW:</td> <td data-bbox="1015 1868 1447 1904"></td> </tr> </table>	ID:		PW:	
ID:						
PW:						

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 秋田雨雀・土方与志記念青年劇場】

対象	小学生(低学年)		
	小学生(中学年)	○	
	小学生(高学年)	○	
	中学生	○	
企画名	あの夏の絵		
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	「あの夏の絵」 作・演出/福山啓子 美術/石井強司 照明/河崎浩 選曲/堀沢宏幸 音響効果/石井隆 衣装/宮岡増枝 公演時間 120 分		
著作権、上演権利等の 許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当なし	該当コンテンツ名
	該当事項がある場合	権利者名	許諾確認状況
演目概要	舞台は広島市内のとある私立高校。美術部顧問の岡田が持ち込んだ「被爆証言を聞いて絵に描く」取り組みに参加する事になった三人の高校生。被爆三世のメグミ。東京から引っ越してきて、平和教育には全く興味のないナナ。漫研と兼部しているアツト。それぞれが証言者・白井の話を書く中で、心を突き動かされていくが…。広島市立基町高校創造表現コースの生徒たちが取り組んでいる実践をモデルに、2015年福山啓子の書き下ろし・演出で初演。その後全国各地での公演を行い、創造的にも高い評価を頂き2018年にはNHKBSプレミアムステージで放映されました。		
演目選択理由	被爆者の高齢化が進むなか被爆の継承をどのように進めていくのか、大きな課題になってきています。広島市立基町高等学校での「原爆の絵」の取り組みは、高校生が被爆の実情を証言者から聞きとり、それを忠実に絵にしていける事で、自らも被爆者の体験を追記していくという、「被爆の継承」を繋いで来ています。「原爆の絵」にであった作者は、この取り組みを舞台化し、多くの皆様に御覧頂きたいと、1年間の取材を元に「あの夏の絵」を立ち上げました。「核兵器禁止条約」が2021年採択されるなど、世界での平和に向けた動きが進んでいる半面、ウクライナでの戦争が続く今こそ、この作品を通じて「平和」「戦争」などの問題を、過去から未来にどのようにつなげていく事ができるのか、共に考えることができればと思います。		
児童・生徒の共演、 参加又は体験の形態	生徒さんには本編の始まる前の「ダビンチ先生とミケランジェロ君の絵画教室」というシーンに参加して頂きます。事前のワークショップで生徒さんに一つの「お題」を提示します。そのお題に対してイメージを膨らませ一つのシーンを身体を使って表現する「静止画」を作ります。本番ではその静止画を「ダビンチ先生とミケランジェロ君の絵画教室」の中で発表します。その静止画のタイトルを観客の生徒さんに当ててもらいます。その事で観客も見ただけでなく主体的に参加する事ができます。本番はできるだけ生徒さんたちと劇団員が触れ合う時間を作ります。仕込み見学、バックステージ等、普段は観られないスタッフの仕事を通して、体育館が劇場に変わっていく様子を近くで体験できます。終演後俳優を囲んで座談会を行い、お芝居の感想や、質問など俳優さんと交流する場を作ります。		
出演者	藤井美恵子/広戸聡/永田江里/藤代梓/傍島ひとみ/星野勇二/松田光寿/津曲海七斗		
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む	出演者: 8 名 スタッフ: 10 名 合 計: 18 名	運搬	積載量: 4 t 車 長: 9 m 台 数: 1 台

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み	無	前日仕込み所要時間		時間程度	
	到着	仕込み	上演	内休憩	撤去	退出
	8時	8時～13時	13時30分～ 15時30分	無し	15時30分～ 17時30分	18時
※本公演時間の目安は、午後、概ね2時間分程度です。						

本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)	6月	7月	8月	9月	10月	
	0日	0日	0日	0日	10日	
	11月	12月	1月	計	35日	
	20日	5日				
	※平日の実施可能日数目安をご記載ください。					

児童・生徒の 参加可能人数	本公演	共演人数目安	10名
		鑑賞人数目安	400名

公演に係るビジュアルイメージ
(舞台の規模や演出がわかる写真)

※採択決定後、図面等の提出をお願いします。



(写真①)
基本は体育館の側面に舞台を設置します。生徒さんにより舞台を近く見て頂くことができます。体育館の広さなど条件は特にありません。



(写真②)
体育館の舞台を使用する場合。体育館の舞台に必要な広さは奥行約4m 間口約8m 体育館の条件や、観劇する人数によってこのように仕込みを行う場合もあります



(写真③)
「あの夏の絵」舞台写真
椅子とキャンパスのみのシンプルな舞台が、照明や音響によって、教室や海辺などのシーンに代わっていきます。

児童・生徒の 参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	最大100名
<p>ワークショップ 実施形態及び内容</p>	<p>授業時間の2コマを使います。前半は希望する生徒全員でまずはシアターゲームを行います。その後チームに分かれて静止画づくりをおこないます。後半は本公演に出演する生徒(10名)のお稽古になります。(別紙参照)</p> <p>【前半】 まずは劇団員の自己紹介、その後参加者全員で3つのゲームを行います。</p> <p>①後出しジャンケン 参加者の緊張をほぐす事を目的に講師対参加者全員でジャンケンを行います。ルールは講師の出したジャンケンに必ず勝つ、あるいは負けるという単純なルールですが、ウォーミングアップとして有効なゲームです。</p> <p>②エア縄跳び 見えない縄を想像して、大縄跳びをします。最後は全員で「跳ぶ」事を目標にします。参加者の呼吸を合わせる事が大切なゲームで一体感と達成感が生まれます。</p> <p>③春夏秋冬 参加者を「春夏秋冬」の4グループに分け、チーム事にテーマを決めて、そのテーマに象徴されるシーンを想像して、みんなで一つの静止画を作成します。最後にチームごとに発表をして、何のシーンなのかを他のチームのメンバーに答えてもらいます。チームでの話し合いを大切にしながら、劇団員もサポートをして発表まで持っていきます。</p> <p>【後半】 10分間の休憩をはさんで、本公演に出演する生徒たちのお稽古を行います。生徒さんには「ダビンチ先生とミケランジェロ」という短い作品の中で、一枚の絵(静止画)を作ってもらいます。テーマにそった静止画を「春夏秋冬」のワークの時と同じように、参加者全員の意見をあわせながら作っていきます。</p>		
<p>ワークショップの ねらい</p>	<p>講師の自己紹介はその人の特徴がわかるニックネームで行い、初対面の講師と生徒たちの距離を縮めます。又、シアターゲームは声を出し、身体を動かしながら、頭と身体を解放する事、そしてチームに分かれて行うゲームでは、一つの事を一緒に作り合うという一体感を感じてもらい、コミュニケーションの重要性を実感してもらいます。先生方にもなるべく一緒に参加していただき生徒たちの表情や静止画づくりでの表現など、普段あまり見られない部分を発見してもらえらる場にもしていきます。</p> <p>最後に生徒から、この時間で体験したことの感想や質問を受ける時間をとります。またワークショップ終了後、先生とも懇談の時間をもち生徒たちの様子を一緒に振り返り、本番までに準備しておくことなどを確認します。</p>		
<p>その他ワークショップに 関する特記事項等</p>	<p>参加人数は学校の希望を聞きなるべく希望する生徒数が参加できるように行います。</p>		

本事業への申請理由

【公演団体名 秋田雨雀・土方与志記念青年劇場】

<p>本事業に対する 取り組み姿勢、および 効果的かつ円滑に実施 するための工夫</p>	<p>①本事業に対する取り組み姿勢 青年劇場は1964年の創立以降、学校公演作品(青少年作品)を主軸に全国に作品を届けています。 近年は少子化による生徒数の減少、経済的な理由そしてコロナの影響で芸術鑑賞の機会が減ってきているのが現状です。 コロナ禍を経て、人と人が接する事の大切さ、生の舞台に接する事の重要性が語られるようになってきました。特にコミュニケーションの活性化、自己肯定感、自発行動、などを養うことができる演劇教育の意義は益々大きくなっており、演劇とワークショップを通じて全国の子どもたちと触れ合うことが出来る本事業が重要になってきています。劇団としても広く本事業の意義を伝える為にも公演を成功させ、公演の成果を他の学校関係者等にも伝えていきたいと考えております。</p> <p>本事業で演劇に初めて出会う子どもたちに、演劇は難しいものではない事、又表現する事の楽しさを体験してもらう為にも、ワークショップの内容は毎回検証し、より良い物を目指します。ワークショップでは、集団でひとつの事を表現するという体験を通して、参加者同士の交流が生まれ、又発表するという事で一つの事を一緒にやり遂げるという達成感が生まれます。その経験を大切にして今後の集団生活に生かしていけるよう、生徒だけでなく、教師の皆さんにも一緒に参加して頂きます。</p> <p>ワークショップと公演終了後には、生徒や先生に感想を書いて頂きます、その感想も含めた劇団独自の報告集を作成し、各方面に報告して、今後の事業の発展につなげられればと思っております。</p> <p>②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫 (学校との打ち合わせ) 上演する学校が決まった時点で、先生に作品やワークショップの内容などの資料をお送りします。その後電話でワークショップの打ち合わせを行います。 初めて本事業の担当になる先生も多く、ワークショップから本公演までの流れを、劇団独自に作成した資料もお送りして丁寧に対応していきます。本公演の細かな打ち合わせはワークショップの時に行います。 (ワークショップ) 講師は6名、ワークショップの前に先生と打ち合わせを行い、事前に参加する生徒たちの特徴や注意する事などについて共有します。ワークショップの内容は、この間の経験を生かし、参加人数にあわせたプログラムを組んでいきます。 (体育館公演) 劇団の創立以来受け継いでいる体育館仕込みのキャリアを活かし、体育館をより劇場空間に近いものに仕込みます。本番当日普段の体育館が劇場に変わっている事で、これから始まる舞台に向けて生徒たちの期待が高まります。 体育館の大きさや、突然の雨などによって台詞が聞きにくい場合がありますので、集音マイクを仕込み自然な状態で声が届くように調整します。 学校と相談して可能であれば、仕込み見学も行います。体育館がどのように変わっていくのか身近で見ることが出来ます。 (座談会) 事後交流の場として、出演者を囲んでの座談会を積極的に行います。</p>
--	--

リンク先 No.3

【公演団体名 秋田雨雀・土方与志記念青年劇場 】

ワークショップの実施形態



〈後出しジャンケン！〉
全員で一斉にジャンケンポン！



〈大縄跳び〉
見えない縄を一緒に跳ぼう！
最後は全員と一緒に！



〈春夏秋冬〉
チームごとテーマを決めて一
つのシーンを作ろう！



「本番前のリハーサル」